

新規加盟団体紹介「神奈川県サーフィン連盟」

会長 田中 啓三

1. 組織

神奈川県サーフィン連盟は、平成30年10月29日に設立したばかりの新しい組織です。現在、会員は、(一社)日本サーフィン連盟(以下NSAという。)川崎支部・横浜支部・相模原支部・湘南鎌倉支部・湘南藤沢支部・湘南茅ヶ崎支部・湘南西支部の7支部と藤沢市サーフィン協会・茅ヶ崎サーフィン協会・大磯サーフィン協会・小田原サーフィン協会の4協会です。

そして、各支部に支部長をはじめとした競技選手が約1500名所属(令和2年4月1日現在)し、各協会には地域のクラブ、サーフショップ、愛好家等が所属しています。

2. 歴史

約1600年前、サーフィンの原型は、古代ポリネシアにおいて存在していたといわれ、また、20世紀初頭のハワイでのサーフィンブームが、近代サーフィンの始まりとされます(NSAホームページ参考)。

日本においては、1960年頃、在日アメリカ人が湘南や千葉などで始めたものとされ、それを見た近所の日本人も始めるようになったようです。

現在の国内サーフィンの愛好家は、100万人とも1000万人とも言われており、アマチュア競技人口は全国で2万人ほどいます。

3. ルール

簡単にルールを説明したいと思います。基本的にはNSA競技規定に則ります(NSAホームページ参照)。

1ラウンド、2ラウンドと勝ち上がっていくトーナメント方式で、1ヒート15～30分間(波のコンディションにより決定)、1ヒートの人数は4人を基本として競技します。1ヒートの上位2選手が、次のラウンドへ勝ち上がることができます。

選手の演技を採点するジャッジ(審査員)は4～5人。選手の1本の波での演技の中で技の難易度、スピード、演技の流れなどの要素に対してスコア(1本の演技では10点満点)を加点方式で付けていきます。各選手が演技したベスト2ウェイブの得点合計(20点満点)で争います。

4. 事業

設立間もない団体であることから、県サーフィン連盟を主体とした競技活動は、今のところ、「かながわシニアスポーツフェスタサーフィン大会」に限られています。

今後は、神奈川県内をカバーした競技大会(県大会)なども視野に入れ、取り組んでいく予定です。

現在、オリンピック史上初めて競技に加えられる、「ねんりんピックかながわ」へ向けた取り組みを進めているところです。